

# 学びの原点に立ち返る

## －「理科」と「社会科」の間－

社会科と理科は、社会科学と自然科学という異なる学問体系を背景とし、相補的なものとして位置づけられることが多いが、私たちが生きているこの世界のありようを発見し、理解し、それに自主的にかかわっていこうとする資質を育てるといった目的は共通しています。これらの教科を通しての学びは、子どもが生きる上でどのような力と糧になるのか。教員養成の現場から、宇宙物理学と理科教育を専門とする小林晋平氏、元日本社会科教育学会長で社会科教育（主に歴史教育）と韓国教育を専門とする坂井俊樹氏、環境教育と教育学を専門とする原子栄一郎氏をお迎えし、分野の垣根を超えて議論します。彼らが教科学習の目的をどう語るかを聴き合い、参加者とともに議論を交わすことで、学びの原点に立ち返って「未来のカリキュラム」を構想していきます。学校現場の先生方、大学の研究者、学生、市民の皆さまの参加をお待ちしています。参加申し込み不要・参加無料です。（詳細は裏面参照）

**日時 2017年12月17日（日） 13時～16時**

**場所 東京学芸大学 中央講義棟C棟3階 C303**

**提案1 「人にとって学びとは何かー世界を面白がる方法としての物理学ー」**

**小林晋平（東京学芸大学自然科学系物理科学分野准教授）**

**提案2 「社会事象に関する「事実」とは何かー歴史教育の視点から」**

**坂井俊樹（開智国際大学教育学部長、東京学芸大学名誉教授、元日本社会科教育学会会長）**

**提案3 「「人間として生きる」学び：環境教育という地平から」**

**原子栄一郎（東京学芸大学環境教育研究センター教授）**

**司会：金子真理子（東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター教授）**

後援：東京都教育委員会、小金井市教育委員会、日本教育大学協会

国分寺市教育委員会（申請中）、小平市教育委員会（申請中）

お問い合わせ先：東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター

TEL：042-329-7776 メール：currict@u-gakugei.ac.jp

事前申込不要

参加無料

## 趣旨

私たちは、何のために、いかなる知識を生産し、伝え、教えるべきか。教育基本法(平成18年法律第120号)が掲げる教育の目的を見ると、「第一条 教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。」と示されている。国民として求められている「平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質」の中身について、改正前の教育基本法(昭和22年法律第25号)では、もう少し具体的に示されていた。「第1条 教育は、人格の完成をめざし、平和的な国家及び社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたつとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。」ここには、民主主義社会の形成という未来の社会像が反映されている。

このような教育の目的は、初等・中等教育カリキュラムにおける教科学習とどのような関連性を持つのだろうか。社会科では、社会科学を学問的ベースにしながら、以上の教育目的が教科の目的と一致する形で、意識的に共有されてきたと考えられる。一方、理科では、以上の教育目的はそこまで意識化されていたとはいえないが、自然科学を学問的ベースにしながら、子どもが観察や実験をもとに科学的事実を見極められるようになることが重視されてきたと考えられる。だとすれば理科においても、社会科とはまた別のアプローチで、「真理と正義を愛し、個人の価値をたつとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた」資質の育成が図られてきたといえるだろう。すなわち、社会科と理科は、別個の学問体系を持ち、相補的なものとして位置付けられることが多いが、私たちが生きているこの世界のありようを発見し、理解し、それに自主的にかかわっていかうとする資質を育てるといふ目的は共通しているのではないかと思われる。

ところが、理科と社会科の間では、このような目的を共有した上で、それぞれの意義、課題、相補性が垣根を越えて議論されることは少なかった。また、二つの教科をあわせて学ぶ子どものものの見方や能力形成の視点から、教科学習の内容と構成のあり方が十分に関連性をもって追究されてきたとは言い難い。

本シンポジウムでは、第一線の研究者が領域を超えて、教科学習の目的をどう語るかを聴き合い、フロアを交えて議論を交わすことで、学びの原点に立ち返って「未来のカリキュラム」を構想していきたい。

(文責:金子真理子)

## 小林晋平

「万人に効果的な教授法はあり得るか」『工学教育』Vol.61No.3, 2013年。「物理が苦手な学生はどこでつまづくのか〜物理が嫌われる原因といくつかの誤解〜」「物理学の「面白い」学び方〜ブラックホール・ビッグバン・次元の話と物理教育への活用〜」九州大学 基幹教育院 次世代型大学教育開発拠点主催(文部科学省教育関係共同利用拠点)招待講演、2017年、他。

## 坂井俊樹

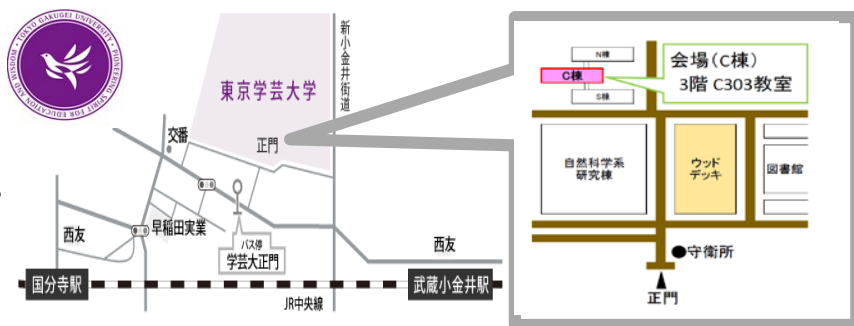
『18歳までに身につけたいカー社会科で育む「政治的教養」』学文社、2017年。『社会の危機から地域再生へ〜アクティブ・ラーニングを深める社会科教育〜』東京学芸大学出版会、2016年。『現代リスク社会にどう向きあうか〜小・中・高校、社会科の実践』梨の木舎、2013年、他。

## 原子栄一郎

「日本における社会批判的環境教育としての公害教育」『環境教育学研究』第26号、東京学芸大学環境教育研究センター、2017年。「環境教育というアイディアに基づいて環境教育の学問の場を開く」『環境教育』vo.19-3, 2010年、他。

## 東京学芸大学へのアクセス

- JR 武蔵小金井駅・北口より  
京王バス(5番乗り場)  
「小平団地」行に乗車、約5分。  
「学芸大正門」下車、徒歩約3分。
- JR 国分寺駅・北口より  
徒歩約20分。



● 会場のC講義棟は正門を入ってまっすぐすすみ、左手の自然科学棟の北にあります。